

I. 日 時：平成23年9月9日(金) 10:30~12:30

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、照屋委員、中西委員

事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

#### IV. 検討事項

##### 1. 大学での情報教育の実施についてのアンケート結果について

- 119校中、情報倫理教育の本格的な実施が27%、約7割が倫理教育が不足していると思われる。
  - 前回のアンケートでは熱心な先生が回答された、今回は大学から半数の回答で、全般的なリテラシーのありようが判断できると考える。アンケートの回答として、初年次のデータは取れたのではないかと考える。
  - センターだけの教育は4%であったが、どういうレベルの教育なのか分析はする必要ある。センターで職員のみでの教育では不足ではないか。高校ではスキル教育をやっており、大学授業ではなくリメディアル教育としてセンターで教育の例あり。
  - 初年次は93%、キャリア教育として26%（ダブリ回答あり）。キャリア教育をやっているのは、大学としての姿勢が見て取れる。初年次だけとのスタンスの違いとして、繰り返し教育しているかと考えられる。初年次と2、3年次にも教育しているのは、継続教育をやっていること。結果から3割の大学は継続教育を実施しているとの大学の姿勢が浮き彫りになったと思われる。
  - 初年次に1科目しかやっていない場合、2科目以上やってほしいポリシーが必要。
  - 学士力としては卒業までの能力が身に付いているか、学部学科の能力で身に付いているのか、全学で推進することの取り組みが必要。
  - モデル化シュミレーションが少ないことが見て取れ、専門部分で学びが必要。
  - 高校での学びがのびないのは、情報を教える先生が不足していることで、今後、情報の科学のシュミレーションなどは、総合や情報科がないと先生が教えられないと思われる。大学として、情報の科学などは大学でカバーする日露があるのではないか。
  - 仮に3柱として「社会と情報」「情報の科学」「倫理」が考えられないか。
  - モラルについては、発達段階であり、大学では上位レベルで判断する必要がある、小学校は道徳と総合学習に情報モラルがはいつている。中高校もいろいろなところに情報モラルは含んで教育されている。
  - 25の大学はキーワード項目7つ全てを網羅している。例としてどのように上手く実施しているかモデルで紹介を考えてはどうか、まねしたいモデルや課題となるモデルも取り上げてはどうか。
- \* 大学としての達成目標の作成については、7カテゴリ（キーワードの区分）として、内容など高校教育を参考にしているかどうかの意見があった。

##### 2. 情報リテラシー教育の到達目標、到達度の設定について委員からの意見

- 委員からの検討資料でコミュニケーションを設定する能力を身に付けるについて、コミュニケーションは場を設定出来ることではないか、メーリングリストやSNSなど特性の理解で使い分けが大切ではないかという、どれが良いか考えていく力が必要で、メディアを使い分けるは表現を変更してはどうか。コミュニケーションとは広くとれば、文章含めてプレゼンテーションといえるのではないか。
- 文章表現、統計についてはリメディアル学習の範囲ではないか。レポート作成能力含めた文章作成は大学教育に含まれるのではないかと意見があった。

- ・ 今年度の入学生の傾向として、ワードエクセルの基本操作、入力程度はできている。論文などのレポート作成や加工などを効率よくできる能力の育成が必要。グラフ含めてプレゼンテーションの一部としてのスキルと考えれば、実データで課題・設定整理・分析・まとめまでを根拠を含めて論理的に文章を書く能力が求められるとの意見があった。

### 3. 今後のスケジュール

- ・ 次回は10月に実施を予定。候補をメールで委員に調整して決定する。

### 4. 次回までの課題

- ・ 学士力を実現するための情報リテラシー教育のガイドラインについて

①学習成果の到達目標 ②学習到達度 ③教育・学習方法の例示 ④到達度の測定方法についてのご意見を（メモ）としての次回までに、各委員で1から2ページに整理作成いただくことにします。  
ます。

- ・ 担当をアンケートで利用したキーワード別に、下記の割り振りとした。

ア. (1) 収集した情報を情報の倫理に配慮して、加工・表現・発信できるようにする。

(＊倫理については作成済み)

(3) 情報社会の光と影を理解させ、安全を維持するためのセキュリティの知識・技能を身に付けさせる。

イ. (2) ソフトを使って文章表現・統計計算ができるようにする。

ウ. (7) 情報の信頼性を選別・識別する知識と技能を習得させる。

エ. (6) 情報通信技術を活用して最適なコミュニケーションを行うための知識と技能を習得させる。

オ. (4) コンピュータと情報通信の仕組みと原理を理解させる。

(5) 問題を効果的に解決する手法として、モデル化やシミュレーションに必要な知識と技能を習得させる。